

戦死せる教え児よ (高知県 竹本源治)

高知県教職員組合雑誌「るねさんす」(1952年1月)

逝ゆいて還かえらぬ教え児よ

私の手は血まみれだ!

君を縫ぬいったその綱はしの 端を私は持つていた

しかも人の子の師の名において

ああ

嗚呼!

「お互いにだまされていた」の言訳が

なんでできようか

ざんき

ざんげ

慙愧、悔恨、懺悔を重ねても

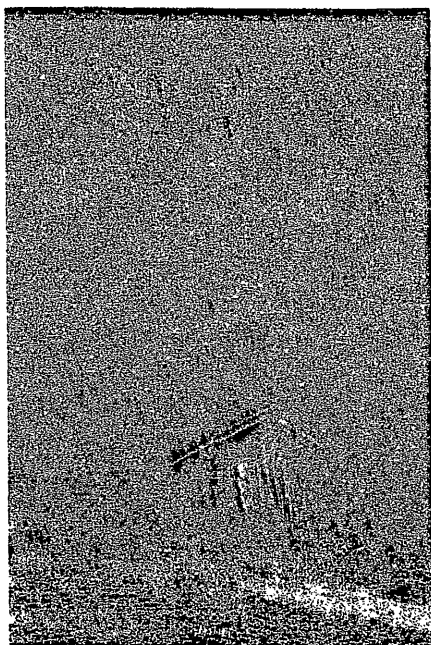
それが何の償いになろう

逝った君はもう還らない

今ぞ私は汚濁の手をすすぎ

涙をはらって君の墓標に誓う

「繰り返さぬぞ絶対に!」



長野 根羽の大柿

戦後少なからぬ教師はこの意気で立ち上がった。

今、安倍内閣は戦前復帰を目指す。

戦争は権力者だけでは行えない。

従順なる国民を育てるのは教育の力だ。

教育が再び軍国主義者の道具に使われてはならない。